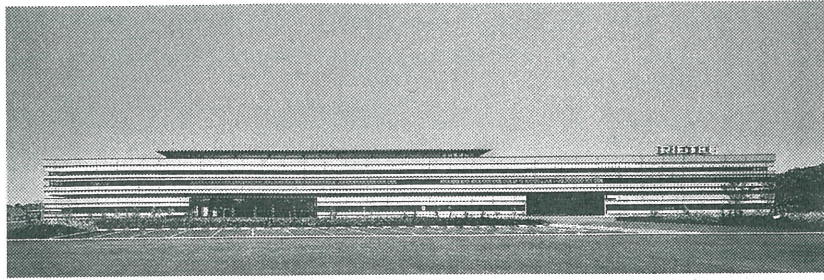
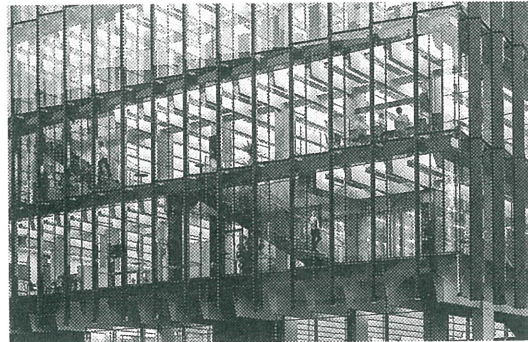


日刊建設工業新聞

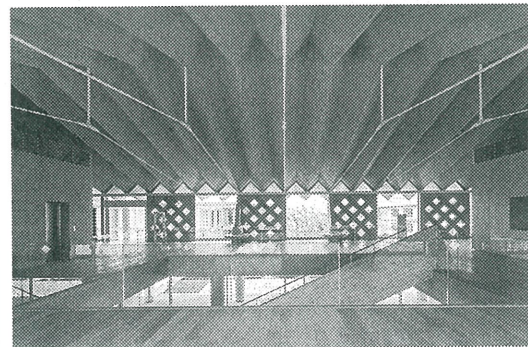
2020年(令和2年)6月12日(金曜日)



日本リーテック総合研修センター外観(撮影・雁光舎<野田東徳>)



NIPPON本社外観
(撮影・川澄・小林研二写真事務所)



ショウナイホテル内観
(撮影・Hiroyuki Hirai)



東日本大震災の伝承のためのパネル
ディスカッション

日本建築構造技術者協会(JSCA、常木康弘会長)は、第31回「JSCA賞」の入賞作品と受賞者を決めた。極めて優れた作品を実現した構造設計者に贈る作品賞は「日本リーテック総合研修センター」(茨城県

取手市)を設計した新谷耕平氏(日建設計)と、「NIPPON本社ビル」(東京都中央区)を手掛けた中村伸氏(日本設計)を選んだ。新型コロナウイルスの流行に配慮し、受賞者講演会は延期する。

日本リーテック総合研修センターは幅約100m、奥行き約25mの細長い形状を持ち、建物中央に3層吹

JSCA賞 新谷氏、中村氏が作品賞受賞

き抜けのアトリウムを設け、水平方向に張り出したケーブルつり構造とハーフプレキャスト(PCa)合

をガラスカーテンウォールで仕上げるなど透明感を与えている。上下階をつないだ複数の階段とミーン

は、「ショウナイホテル」は、スイデンテラス/キッズドームソライ(山形県鶴岡市)を設計した江村哲哉

業績賞は「東日本大震災後の構造技術者としての支援・教宣活動」に従事した加藤重信氏(建築構造センター)が受賞。2011年3月に発生した大震災で復興支援に尽力。JSCA東北支部長の立場で仙台市内にある約340棟の建物被害調査を実施したり、次代を担う構造技術者のために被害状況を記録に残したりして風化防止に力を注いだ。

JSCA賞は技術の発展と建築の質的向上を狙い、建築構造の設計・監理で優れた成果を上げた建築構造技術者を表彰する制度。今回は作品部門に18件、業績部門は5件の応募があった。同協会の審査委員会(委員長・柴田育秀、Arupビルディングエンジニアリングチーム・チームリーダー・柴田委員長は「建築環境、構造の各計画が融合した質の高い建築作品が多く寄せられた」と講評した。